

令和元年試験

論文式試験問題

監査論

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子や筆記用具に触れないでください。触れた場合は、不正受験とみなすことがあります。
- 2 試験中の使用が認められたもの以外は、全てかばん等の中にしまい、足下に置いてください。衣服のポケット等にも入れないでください。試験中の使用が認められているものは、次のとおりです。
〔筆記用具、算盤又は電卓(基準に適合したものに限る。)、時計又はストップウォッチ(計時機能のみを有するものに限る。)、ホッチキス、定規及び耳栓〕
使用が認められたもの以外を机上及び机の中に置いている場合は、不正受験とみなすことがあります。試験中、試験官が必要と認めた場合は、携行品の確認をすることがあります。
- 3 携帯電話等の通信機器の取扱いについては、試験官の指示に従ってください。指示に従わない場合は、不正受験とみなすことがあります。
- 4 試験官の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適正な試験の実施に支障を来す行為を行った場合は、不正受験とみなすことがあります。
- 5 不正受験と認めた場合は、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、2時間です。
- 7 試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 8 試験問題、答案用紙及び試験用法令基準等は必ず机上に置いてください。椅子や机の下等には置かないでください。
- 9 この問題冊子は、1頁から4頁までとなっています。試験開始の合図の後、まず頁を調べ、印刷不鮮明、落丁等があれば黙って挙手し、試験官に申し出てください。
- 10 答案用紙は、問題冊子の中ほどに挿入してあります。
- 11 答案は配付した答案用紙の所定欄に記載し、欄外には記載しないでください。答案作成に当たっては、ボールペン又は万年筆(いずれも黒インクに限る。消しゴム等でインクが消えるボールペンは不可。)及び修正液・修正テープ(白色に限る。)を使用してください。
- 12 受験番号シールは、試験開始の合図の後、各答案用紙の右上の所定欄に貼付してください。1枚目だけでなく、2枚目以降にも受験番号シールを貼付してください。
- 13 答案用紙の散逸や紛失等を防ぐため、答案用紙の左上をホッチキスで留めてありますので、外さずそのままの状態で作成してください。答案作成に当たっては、答案用紙のホッチキス留め部分を折り曲げても差し支えありませんが、ホッチキス留めを外した場合は、採点されないことがあります。
- 14 問題に関する質問には、一切応じません。
- 15 試験開始後60分間及び試験終了前10分間は、答案用紙の提出及び試験室からの退室はできません。それ以外の時間に中途退室する場合には、必ず挙手し、試験官が答案用紙を受け取り確認するまで席を立たないでください。
- 16 試験中、やむを得ない事情で席を離れる場合は、挙手の上、試験官の指示に従ってください。
- 17 試験終了の合図とともに直ちに筆記用具を置き、答案用紙を裏返してください。試験終了後に答案用紙や筆記用具に触れた場合は、不正受験とみなすことがあります。試験官が答案用紙を集め終わり指示するまで、絶対に席を立たないでください。
- 18 試験終了後、答案用紙が試験官に回収されずに手元に残っていたり、機の通路側に回収されずに置いてある場合は、直ちに挙手等の上、試験官に申し出てください。答案用紙が試験官に回収されない場合は、いかなる理由があっても答案は採点されません。
- 19 問題冊子及び試験用法令基準等は、試験終了後、持ち帰ることができます。
なお、中途退室する場合には、問題冊子及び試験用法令基準等の持ち出しは認めません。問題冊子及び試験用法令基準等が必要な場合は、各自の席に置いておきますので、試験終了後、速やかに取りに来てください。

令和元年論文式監査論

(監査論)

(満点 100点) {第2問とあわせ
時間 2時間}

第1問 (50点)

問題 1 監査基準の実施基準一4には、「監査人は、十分かつ適切な監査証拠を入手するに当たっては、財務諸表における重要な虚偽表示のリスクを暫定的に評価し、リスクに対応した監査手続を、原則として試査に基づき実施しなければならない。」とある。これに関連して、次の

問 1 ~ **問 3** に答えなさい。

問 1 現代の大規模企業では、取引件数が膨大で精査が実施不可能であり経済的合理性がないため、財務諸表監査は原則として試査で行われている。これらの要因のほかに試査が採用される理由を二つ説明しなさい。

問 2 財務諸表監査を仮に精査によって実施しても、財務諸表上に、不正による重要な虚偽の表示がないことについて、必ずしも絶対的な保証が得られるわけではない。その理由を説明しなさい。

問 3 監査人が、棚卸資産の実在性と状態について入手した監査証拠の信頼性を判断する際に、留意すべきこと及びその理由を、物理的証拠、文書証拠、口頭的証拠に分けて説明しなさい。

問題 2 金融商品取引法で導入された内部統制報告制度は、経営者による評価及び報告と監査人による監査を通じて財務報告に係る内部統制についての有効性を確保しようとするものである。これに関連して、次の **問 1** と **問 2** に答えなさい。

問 1 内部統制報告制度において、「財務報告に係る内部統制が有効である」とは何を意味するのか、述べなさい。

問 2 内部統制報告書において、財務報告に係る内部統制の評価は、連結会計年度の決算日が基準となっている。このように内部統制の評価を特定時点で行うことは、内部統制の不備が期中に発見された場合の対応を考えると、この制度の目的に適うと言える。その論拠を説明しなさい。

令和元年論文式監査論

(監査論)

(満点 100点)

{ 第1問とあわせ }
{ 時間 2時間 }

第2問 (50点)

次の【状況】に基づき、以下の **問題1** ~ **問題4** に答えなさい。

【状況1】

甲社(上場会社、製造業)の第20期(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表監査を担当する監査人Xは、当期の監査に当たり<資料1>の情報を得た。

<資料1> 甲社に関する基本情報

- ① 創業者が代表取締役を務め経営を支配する、いわゆるファミリー企業である。
- ② 半導体製造装置の製造販売を受注生産により行っている。
- ③ 受注案件ごとに個別原価計算を行っている。なお、工事進行基準を適用しているものはない。
- ④ 取扱う製品に関しては、技術革新が激しく厳しい競争環境にある。
- ⑤ 2013年の上場以来、毎期増収増益であり、増収増益の維持に関しては経営者の関心も高い。第20期も2018年5月に、増収増益となる業績予想を公表し、その後修正していない。
- ⑥ 第20期は、第3四半期まで、売上高の実績は計画を上回って推移しているものの、利益の実績は計画に未達で推移している。
- ⑦ 取締役には業績連動型の報酬制度が導入されており、報酬の大部分が、経営成績に関する目標の達成に左右される賞与などで構成されている。

令和元年論文式監査論

問題1 <資料1>の情報から、財務諸表に重要な虚偽表示が行われる可能性について、監査チーム内でどのような討議が行われたと考えられるか説明しなさい。

【状況2】

【状況1】に続き、監査人Xは、甲社の第20期の期末監査において、<資料2><資料3><資料4>の情報を得た。

<資料2> 監査人が検討の対象とした製造案件

以下の二つの表は、監査人Xが期末監査において、詳細な検討の対象とした甲社における製造案件(A, B, C, D)の、当期の月次発生原価、受注金額、納入期限及び月次仕掛品残高を示したものである。当該案件は全て、2018年10月より製造を開始している。

令和元年論文式監査論

当期の案件別月次発生原価							(単位：百万円)		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	受注金額	納入期限
A案件	70	70	70	70	140	140	560	800	2019年6月
B案件	100	100	100	100	100	100	600	1,400	2019年4月
C案件	80	80	80	80	80	200	600	1,000	2019年5月
D案件	60	60	60	60	60	△60	240	500	2019年3月

当期の案件別月次仕掛品残高							(単位：百万円)		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
A案件	70	140	210	280	420	560			
B案件	100	200	300	400	500	—			
C案件	80	160	240	320	400	600			
D案件	60	120	180	240	300	—			

＜資料3＞ 第20期決算における各案件に関する処理状況

A案件：集計された原価合計560百万円を仕掛品として計上している。

B案件：3月に受注金額1,400百万円を売上に計上し、仕掛品に集計されていた原価合計600百万円を製品勘定を経て売上原価に振替計上している。

C案件：集計された原価合計600百万円を仕掛品として計上している。

D案件：3月に受注金額500百万円を売上に計上し、仕掛品に集計されていた原価合計240百万円を製品勘定を経て売上原価に振替計上している。

＜資料4＞ 各案件について監査人Xが得た情報

A案件：製造作業でトラブルがあり、2月以降想定外のコストが発生している。

B案件：得意先Bより受注した案件である。監査人Xは、得意先Bに対し、期末日を基準日として売掛金の確認を実施しようとしたが、当該確認を見合わせるよう甲社から依頼を受けた。

C、D案件：C、D案件の甲社の担当者は同じである。この担当者の部署は、第3四半期まで、利益が計画に対し大きく未達であった。

問題2 A案件について、監査上特に考慮すべき勘定科目とその監査要点を一組示し、それが考慮されるべき理由及び監査人Xのとるべき対応を説明しなさい。

問題3 B案件について、監査上特に留意すべき事項を3点指摘し、監査人Xのとるべき対応を説明しなさい。

令和元年論文式監査論

問題 4

問 1 監査人Xは、C、D案件の月次発生原価及び月次仕掛品残高の動きを分析した結果、C、D案件を併せて検討することとした。その理由として考えられることを説明しなさい。

問 2 監査人Xは、C、D案件に対する監査手続を実施した結果、監査役等とコミュニケーションをとる必要があると判断した。この場合、当該判断の根拠として考えられる状況を説明しなさい。